

# 北見市における景気動向調査報告書

< 第 IV 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

## I. 調 査 要 領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成26年4月17日

(2) 調査対象期間 平成26年1月～3月期実績および平成26年4月～6月期見通しについて調査した。

### 2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

### 3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	21社	70.0%
建設業	30社	26社	86.7%
卸売業	30社	27社	90.0%
小売業	35社	23社	65.7%
サービス業	25社	18社	72.0%
合計	150社	115社	76.7%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

## II . 概 況

### 《 全 体 の 動 き 》

平成25年度第IV四半期平成26年<1月～3月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」17.0、「悪化企業」40.6、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△23.6となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期△23.6→今期△23.6と同等の傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値9.6、建設業D・I値23.0、卸売業D・I値29.7、小売業D・I値17.3、サービス業D・I値△61.2となっており、前年同期と比較すると、小売業で58.3ポイント、卸売業で47.0ポイント、建設業で36.0ポイント、製造業で19.1ポイント好転している一方、サービス業で19.9ポイント悪化となりました。サービス業以外はプラス値であり、サービス業については60ポイントを超える大幅なマイナス値となっていることから消費税増税の駆け込み需要の影響により、業種によって明暗が分かれていることが伺えます。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」17.4%、「悪化企業」35.8%でD・I値△18.4%と、前年同期見通し(△16.9)に比べ17.4ポイントの悪化傾向を示し、今期の業況と同様にD・I値はマイナス値であり、予断を許さない見通しとなっています。

### 《 業 種 別 の 動 き 》

#### 1) 製 造 業

##### 生 産 高

前年比で「増加企業」33.3%、「減少企業」33.3%、D・I値0と前年同期に比べ23.8ポイントの好転傾向を示しました。

##### 採 算

前年比で「好転企業」38.1%、「悪化企業」33.3%、D・I値4.8と前年同期より33.5ポイント好転となりました。

##### 来期見通し

業況D・I値△28.7、生産高D・I値△11.0、資金繰りD・I値△9.5と、前年同期に比べ、業況は悪化、生産高は好転、資金繰りは好転と、今期が良好だったことが伺える結果となりました。

## 2) 建設業

**完成工事高** 前年比で「増加企業」26.9、「減少企業」26.9%、D・I値0と前年同期に比べ、D・I値がプラスから横ばいに転じる結果となりました。

**採算** 前年比で「好転企業」30.8%、「悪化企業」34.6% D・I値△3.8と前年同期に比べ3.8ポイントの悪化傾向を示しています。

**来期見通し** 業況D・I値7.7、完成工事高D・I値7.7、資金繰りD・I値△15.4と、前年同期の見通しと比べ、業況・完成工事高は好転、資金繰りが悪化となりました。

## 3) 卸売業

**売上高** 前年比で「増加企業」59.3%「減少企業」14.8%、D・I値△44.5と前年同期に比べ66.3ポイントの大幅な好転傾向を示しています。

**採算** 前年比で「好転企業」33.3%、「悪化企業」18.5%、D・I値14.8と前年同期に比べ27.9ポイントの好転傾向を示しました。

**来期見通し** 業況D・I値△48.2、売上高D・I値△51.9、資金繰りD・I値△11.1と、前年同期に比べ全て悪化結果となりました。

## 4) 小売業

**売上高** 前年比で「増加企業」39.1%「減少企業」21.8%、D・I値△17.3と前年同期と比べて62.8ポイントの大幅な好転傾向を示しています。

**採算** 前年比で「好転企業」26.1%「悪化企業」21.7%、D・I値4.4と前年同期と比べ49.8ポイントの大幅な好転となりました。

**来期見通し** 業況D・I値△26.0、売上高D・I値△26.0、資金繰りD・I値△17.4と前年同期と比べ、資金繰りは若干好転したものの、業況・売上高は悪化となりました。

## 5) サービス業

### 売上高

前年比で「増加企業」5.5%、「減少企業」66.7%、D・I値△61.2と前年同期と比べ49.4ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

### 採算

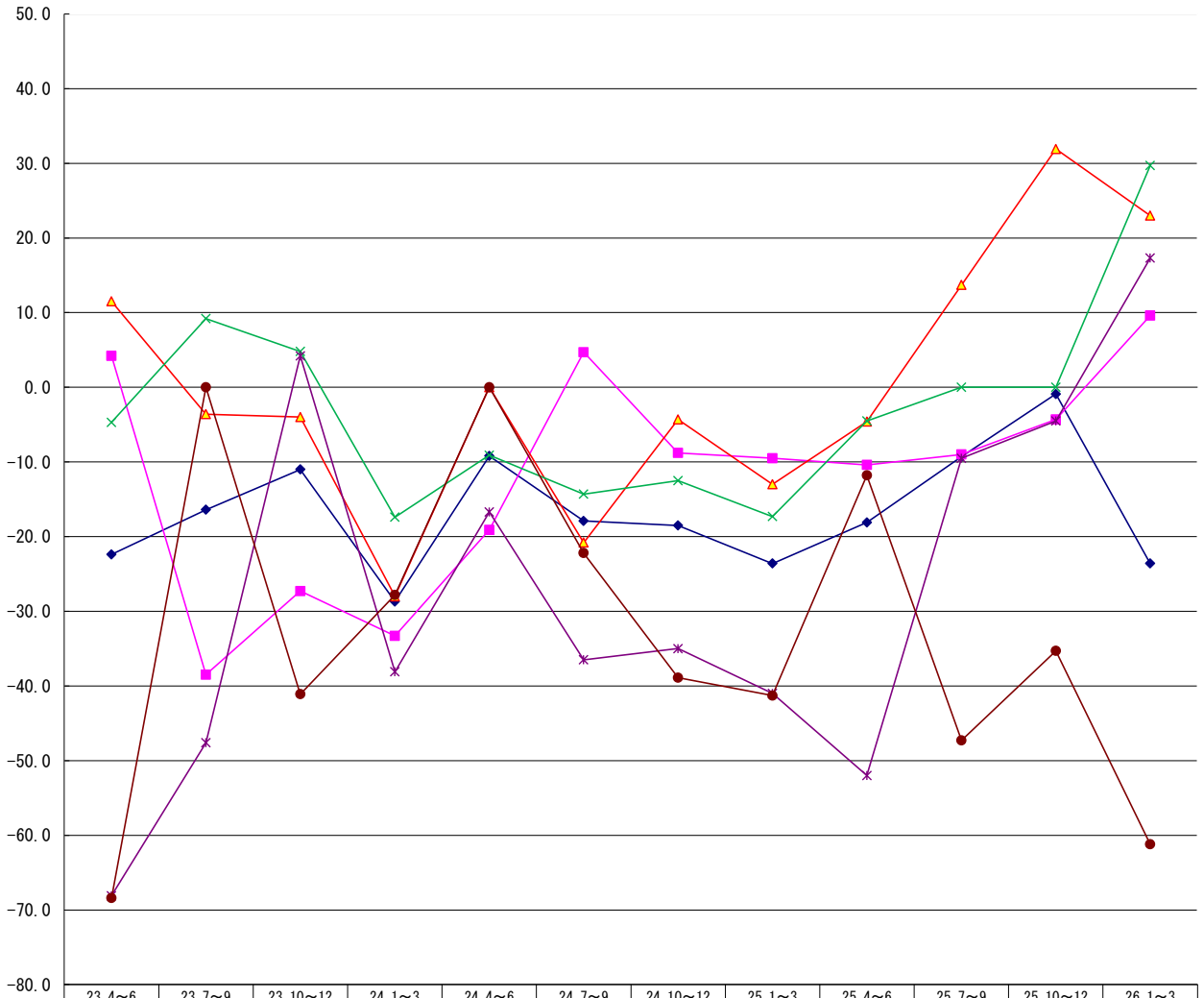
前年比で「好転企業」11.1%、「悪化企業」77.8%、D・I値△66.7と前年同期から43.1ポイントの大幅な悪化となりました。

### 来期見通し

業況D・I値△33.3、売上高D・I値△44.5、資金繰りD・I値△49.9と、前年同期と比べ全て悪化となりました。

## 業況（前年同期比）

◆ 全業種   
 ■ 製造業   
 ▲ 建設業   
 × 卸売業   
 ✱ 小売業   
 ● サービス業



	23.4~6 23年度 I	23.7~9 23年度 II	23.10~12 23年度 III	24.1~3 23年度 IV	24.4~6 24年度 I	24.7~9 24年度 II	24.10~12 24年度 III	25.1~3 24年度 IV	25.4~6 25年度 I	25.7~9 25年度 II	25.10~12 25年度 III	26.1~3 25年度 IV
◆ 全業種	-22.4	-16.4	-11.0	-28.7	-9.2	-17.9	-18.5	-23.6	-18.1	-9.3	-0.9	-23.6
■ 製造業	4.2	-38.5	-27.3	-33.3	-19.1	4.7	-8.8	-9.5	-10.4	-9.0	-4.3	9.6
▲ 建設業	11.5	-3.6	-4.0	-28.0	0.0	-20.8	-4.3	-13.0	-4.6	13.7	31.9	23.0
× 卸売業	-4.7	9.2	4.8	-17.4	-9.1	-14.3	-12.5	-17.3	-4.5	0.0	0.0	29.7
✱ 小売業	-68.1	-47.6	4.2	-38.1	-16.7	-36.5	-35.0	-41.0	-52.0	-9.5	-4.5	17.3
● サービス業	-68.4	0.0	-41.1	-27.8	0.0	-22.2	-38.9	-41.3	-11.8	-47.3	-35.3	-61.2

## 業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 件 費 増	人 材 不 足
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
卸 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	売 掛 金 回 収 難
サ ー ビ ス 業	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 材 不 足
合 計	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

合計を前年同期と比較すると、「諸経費増」が1位（前年同期：同業者間の競合）と最近の原材料等の高騰の影響が考えられます。また、建設業では1位が「人材不足」と人的な課題が慢性的になっていることが伺えます。

### ※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

（製造）○原材料の値上がり（木材）  
○低価格（鉄工）

（建設）○アベノミクス効果も2年目となったが期待ほどではなく、前年度より厳しくなりそうだ（土木）  
○職人不足で人件費増、利益率ダウンが懸念（板金）

（卸売）○人口減による需要縮小の中で仕事を奪い合っている（鉄鋼）  
○過剰在庫があり、得意先の減少が続いている。（米穀）  
○海外工賃の高騰、工場の淘汰による納期遅れ（作業服）  
○店頭販売のメーカーが割引するなど業界も変わってきた（化粧品）  
○アベノミクスに伴う景気浮揚、北見市の建築ラッシュにも関わらず厳しい経営環境（医療機器）  
○少子高齢化などによる需要の減少（石油）  
○市場の縮小、利幅の減少（肥料）

（小売）○売価継続（婦人服）  
○7割が掛け販売なため、売上増＝運転資金の需要が上がる（水産）

（サービス）○人材不足が深刻（理美容）

※消費増税の影響について

※重複回答

- (製造) ○様子を見ている状況 (鉄工)  
○当分影響があると思うがじき回復するだろう (鉄工)
- (建設) ○年度前半は少なからず影響が考えられる (建設)  
○価格転嫁が困難な面がある (建設)  
○まだわからない (土木)  
○特に駆け込み需要は感じず、影響はまだわからない (看板)  
○あまり影響を感じない (板金) ※  
○4月から受注減 (土木)
- (卸売) ○影響無し (農産物)  
○駆け込み需要の反動が4月以降予想される (鉄鋼)  
○現在は大きな影響はない (米穀)  
○あまり実感としてはないが、3月期の売上が伸びているので少なからず影響が見受けられるようだ。(木材)  
○若干の前倒し需要があったが、4月以降の影響はない (作業服)  
○多少あると思う (化粧品)  
○価格転嫁が困難 (医療機器)  
○影響無し (玩具)  
○4月一杯様子見 (事務機)  
○3月に前倒し需要が相当あり、反動がいつ収まるのか不明な状態 (肥料)  
○3月は昨年比2倍の来客数で4月は減少、特段の需要増減の影響はなし (石油)  
○予想通り4~6月に影響ありそうである (金物)
- (小売) ○影響なし (眼鏡)  
○大いに有り (紳士服)  
○増税前、後減少 (婦人服)  
○同業者間の競合により価格が上げられない (米穀)  
○影響なし (水産)
- (サービス) ○しばらくは客足減少、来店周期が伸びることが予想される (理美容)  
○目立った変化なし (仕出し)

## 業況

製造業 ⇒ 好転 (鉄工、一般機械、農機具、木製建具、菓子)  
悪化 (印刷、鉄工、石材、鋳物、飴)

建設業 ⇒ 好転 (土木とび、土木管、電気工事、板金、一般住宅建築)  
悪化 (電気工事・設備、看板)

卸売業 ⇒ 好転 (鋼材、事務機器、塗料、米、木材、作業服、肥料、金物)  
悪化 (石油、食品、医療、コンビニ)

小売業 ⇒ 好転 (自動車、スポーツ、水産、紳士服、婦人服、菓子)  
悪化 (酒、青果、農機具、米)

サービス業 ⇒ 好転 (IT)  
悪化 (ホテル、飲食店、クリーニング、理美容、清掃レンタル、仕出し)

※太字アンダーライン表示は重複該当業種